

尿・糞便 検査

	J-ド No.	項目名 (別名・略称)	検査方法 基準範囲	検体名 必要量	容 器	保 存	所 要 日 数	採取・提出・条件	備 考
尿 中 一 般 物 質 定 性 検 査	79347	尿比重	試験紙法 1.015~1.025	随時尿 10mL	d	室温	1日	放置尿ではpH、ビリルビン、ウロビリノーゲンは変化するため、当日出検厳守。	
	79348	尿pH	試験紙法 5.0~8.5						
	79349	尿蛋白	試験紙法 (-)						
	79350	尿糖	試験紙法 (-)						
	63	尿潜血	試験紙法 (-)						
	59	尿ビリルビン	試験紙法 (-)						
	57	尿ウロビリノーゲン	試験紙法 (+/-)						
	62	尿ケトン体 (尿アセトン体)	試験紙法 (-)						
	1143	尿中亜硝酸塩	試験紙法 (-)						
	79351	尿中白血球	試験紙法 (-)						
尿 中 一 般 検 査	79352	尿蛋白定量 (随時)	ビロロルット法 随時尿10mg/dL未満 蓄尿21~120mg/day	尿 3.0mL	d	冷蔵	1日	①当日中に提出できない場合は冷暗所に保存して下さい。冷所保存により塩類が析出することがあります。 ②尿を化学的検査のために蓄尿するときは、24時間尿に対して2~3mLの防腐剤(トリアソールなど)をお使い下さい。 ③尿蛋白とクレアチニン同時依頼の場合は、クレアチニン補正值の報告可。	
	52	尿蛋白定量 (蓄尿)							
	79354	尿糖定量 (随時)	ヘキサナーゼ・G-6-PDH法 随時尿40mg/dL未満 蓄尿40~85mg/day	尿 3.0mL	d	冷蔵	1日		
	56	尿糖定量 (蓄尿)							

項目名	臨床的意義
尿比重	<ul style="list-style-type: none"> ■高比重 糖尿病、熱性疾患、下痢・嘔吐などによる水分喪失 ■低比重 腎機能不全、尿崩症
尿pH	<ul style="list-style-type: none"> ■酸性 糖尿病、痛風、腎炎、飢餓、脱水、発熱 ■アルカリ性 尿路感染症（特に変形菌）、制酸剤の長期投与、過呼吸の継続、頻回の嘔吐
尿蛋白	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 腎炎、腎盂腎炎、膀胱炎、ネフローゼ、糖尿病性腎症、心不全、溶血性疾患、膠原病、発熱、過労、中毒性疾患
尿糖	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 糖尿病、膵炎、肝不全、甲状腺機能亢進症、妊娠、頭蓋内圧亢進、ステロイド剤服用者
尿潜血	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 腎炎、腎尿路腫瘍、腎尿路結石、前立腺炎、溶血性疾患、出血素因、膠原病、心不全、急性感染症
尿ビリルビン	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 肝炎、肝硬変、肝癌、胆道疾患、膵疾患、妊娠、黄疸、薬物中毒、輸血後
尿ウビリノーゲン	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 肝胆道疾患、うっ血性心不全、感染症、発熱、運動後、溶血性貧血、悪性貧血、体内出血巣 ■欠如 胆肝完全閉塞、肝性黄疸の極期、高度の腎不全、抗生物質投与時
尿ケトン体	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 糖尿病性アシドーシス、過剰脂肪食、低炭水化物食、消化吸収障害、小児自家中毒、飢餓、下痢、頻回の嘔吐
尿亜硝酸塩	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、無症候性細菌尿
尿白血球	<ul style="list-style-type: none"> ■陽性 尿路感染症、アレルギー性疾患、膠原病、尿路結石
尿蛋白定量	<p>1. 尿中に排泄される蛋白は正常ではごく微量（数10mg/day）。150mg/day以上では病的蛋白尿とされる。</p> <p>(↑) ①腎前性…多発性骨髄腫、溶血性疾患、L鎖病、単球性白血病 ②腎性…糸球体障害（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎硬化症）、尿細管障害（fanconi症候群、wilson病）、間質障害（薬剤アレルギー） ③二次性腎疾患…ループス腎炎、糖尿病性腎症、アミロイド腎 ④腎後性…前立腺炎、膀胱炎、結石、腫瘍、ファラリア症</p>
尿糖定量	<p>1. 腎での糖排泄限界は170mg/dL前後といわれ、血糖値がこの域値以上となると糸球体での濾過量が再吸収を超え尿中にブドウ糖が遊出する。</p> <p>2. 血糖値が正常でも、糖域値が低下すれば尿中に糖が排泄される。</p> <p>(↑) 糖尿病（IDDM、NIDDM、その他）、末端肥大症や甲状腺機能亢進症などの内分泌疾患、肝硬変胃切除後、急性・慢性膵炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、カドミウムや抗生剤による腎障害</p>

尿・糞便 検査

	J-ド No.	項目名 (別名・略称)	検査方法 基準範囲	検体名 必要量	容 器	保 存	所要 日数	採取・提出・条件	備 考
尿 中 一 般 検 査	79142	尿沈渣	鏡検法 (染色標本法) WBC<3/HPF RBC<1/HPF	随時尿 10mL 【厳守】	d	室温	1日		<p>① 尿中有形成分は不安定で壊れやすいため、採尿後は速やかに提出してください。 <u>当日出検厳守のこと。</u></p> <p>② 採尿後の尿の保存状態によっては外部からの混入により、尿路由来以外のものが認められることもあります。</p> <p>③ 尿量は直接検査結果に影響します。 10mL 以下の場合、参考値となります。</p>
糞 便 検 査	79358	便中 ヒトヘモグロビン (免疫学的潜血検査)	仏カマトグラーフ法 (ICA金コロイド法) (-)	便適量	L	冷蔵	1日	当日中に提出できない場合は冷暗所に保存してください。	
	79359	2回目							
	79209	寄生虫(卵) 塗抹検査 (塗抹標本法)	厚層塗抹法 (-)	便 小指頭大	M	冷蔵	1日		
	79206	蟯虫(卵)検査 (セロファン [®] 検肛法)	セロファン [®] 検肛法 (2日法) (-)	専用 セロファン	U	室温	1日	必ず排便前に採取してください。 採取方法はセロファン袋に記載あり。	

項目名	臨床的意義
-----	-------

尿沈渣	1. 10mLの尿を遠心分離し、沈渣標本を作成し、鏡検により尿中の有形成分の有無及び数量、形態的特徴を調べる。数量表記は(400×)の強拡大当り(/HPF)が基準となり、他に(100×)の弱拡大(/LPF)も使用される。				
	表6. 尿沈渣で検出される成分と関連する疾患				
		種別	成分名	参考基準値	関連する疾患
	血球成分		白血球	<3/HPF	炎症性疾患(好中球)、腎結核(リンパ球+)、間質性腎炎(好酸球+)など 好中球は膀胱炎や腎盂腎炎で、輝細胞(グリッター細胞)として認められる
			赤血球	<1/HPF	大部分の腎・尿路疾患、出血性疾患、変形赤血球は糸球体性血尿
	上皮細胞		扁平上皮	0~少数	—
			尿路上皮*	0~少数	腎盂から膀胱までの炎症、結石症、腫瘍
			尿細管上皮	0	尿細管障害
			円柱上皮	0~少数	正常、尿道炎、前立腺炎、月経時混入
			封入体含有細胞	(-)	ウイルス感染や細胞の変性
	円柱		硝子円柱	0~少数	少数なら正常
			白血球円柱	0	腎盂腎炎
			赤血球円柱	0	急性腎炎、腎出血時
			顆粒円柱	0	慢性腎炎、ネフローゼ、ある程度病勢を反映する
			上皮円柱	0	尿細管の病変、尿細管腔の閉塞
		ろう様円柱	0	腎盂腎炎末期、ネフローゼ症候群	
		脂肪円柱	0	ネフローゼ症候群、ループス腎炎、糖尿病性腎炎	
その他		卵円形脂肪体	(-)	ネフローゼ症候群	
		細菌、真菌、トリパネ原虫	(-)	感染症	
		脂肪球	(-)~(+)		
		粘液糸	(-)~(+)	発熱時など	
結晶		病的：シスチン(シスチン尿症、アミノ酸代謝障害)、ビリルビン(肝障害)、尿酸(痛風腎)			
		チロシン・ロイシン(重症肝障害)、コレステロール結晶・脂肪酸結晶(ネフローゼ症候群など)			
		正常：リン酸塩、尿酸塩、シュウ酸Caなど(腎結石で多量のシュウ酸Caが出現)、各種薬剤結晶			
※ 2012年日臨技指針より移行上皮は尿路上皮へ名称変更。					
便中 ヒトヘモグロビン	1. ヒトヘモグロビンに特異的な免疫学潜血検査。食事制限の必要はなし。 2. 大腸癌検診のスクリーニングとして利用されることが多い。 3. 新鮮な便が条件であることは、従来の化学的方法と変わらない。生理中および生理後3日以内の検体は不適。また、血尿および血友病の患者の場合に偽陽性になることがある。				
虫卵塗抹検査	1. 厚層塗抹法は蛔虫卵などの産卵数の多い虫卵の検出に有効である。 【参考】 各種寄生虫の1日の産卵数 ・蛔虫受精卵…20~30万 ・蛔虫不受精卵…6~11万 ・アメリカ鉤虫…5千~1万 ・鞭虫…900 ・ズビニ鉤虫…1~1.5万 ・東洋毛様線虫…50~260 ・糞線虫…約60 ・蟯虫…6千~1万 ・肝吸虫…4.2千~7千 ・肺吸虫…1~2万 ・横川吸虫…280 ・広節裂頭条虫…100万				
蟯虫卵検査	1. 蟯虫は肛門の周囲に産卵する習性があり、糞便中の検出が困難なためセロファンによる肛門検査法が採用されている。一般に家族内感染が多いので、陽性者に対しては家族全員の駆虫が奨励されている。				